

# XP祭り関西2011 プログラム

日時：2011年1月29日 10:15～16:30

場所：大阪市立 会館 鶴見区民センター(06-6912-3971)

※ セッション1/セッション2 と ワークショップ は、いずれか一方しか参加できません。

時間	メイン会場	ワークショップ会場
10:15 - 10:45	受付	
10:45 - 11:00	主催者挨拶	
11:00 - 12:15	<b>【1-1】基調講演</b> <b>木下史彦 / 永和システムマネジメント</b> これからの「アジャイル」の話をしよう ——今を生き延びるための開発手法とスキル (関西バージョン) 私がアジャイル開発を実践し始めてから早6年。業界の中でも中堅と言われる立場になりました。 「誰も幸せにならない」。そんなシステム受託開発の現場がおかれた現状を打開したいと、アジャイル開発を実践し、推進してきました。 立ち止まってふりかえってみれば、その道のりはうまくいったことばかりではなく、むしろ様々な壁にぶつかり、そのたびに現実との折り合いをつけてきたことのほうが多かったといえます。 失敗・不安・重圧。そういったことを含めたありのままの現実とこれからは、アジャイル開発の最前線からお届けします。	
	12:15 - 13:15	昼休み
13:15 - 14:00	<b>【1-2】セッション1</b> <b>あきびー / XPJUG関西</b> Agile開発のスケールアップ ～Agile2.0をサポートするチケット駆動開発～ XPが登場して10年経ち、Agile開発の利点は広く知られてきたものの、Agile開発は大規模プロジェクトに適用しにくいなどの弱点を言われ続けてきました。 しかしながら昨年、従来のAgile開発の弱点を補強しようとする動きが起きており、これらはAgile2.0(2週目のAgile)と呼ばれています。 チケット駆動開発は高機能化したBTS(バグ管理システム)をAgile開発のプロジェクト管理に使う発想から生まれましたが、このAgile2.0の潮流の一つとしてあげられています。 本講演では、昨今のAgile2.0がAgile開発の弱点をどのように解決しようとしているのか、そしてチケット駆動開発はAgile開発をどのように進化させようとしているのか、について解説します。	<b>【2-1】ワークショップ</b> <b>FPF関西</b> アジャイルプロセス入門 ～朝会(あさかい)から始めるチームビルディング～ アジャイルプロセスとは「アジャイルな開発を実践するために、重要なプラクティスを定義し、まとめたもの」です。 今回はそのプラクティスの1つである朝会(あさかい)について考えるワークを用意しました。 朝会(あさかい)を実践することは容易です。 しかし、中には形式だけになっている朝会(あさかい)も見られます。 今回のワークではソフトウェア開発プロセス全体の中の朝会の役割、位置づけを明確にすることで、朝会(あさかい)を行なう意味や良い朝会(あさかい)のエッセンスを皆さんと一緒に考えたいと思います。 <b>※こちらに参加される場合、セッション1/2へ参加できません。</b>
	14:00 - 14:45	<b>【1-3】セッション2</b> <b>井芹洋輝 / TDD研究会</b> ユニットテストの保守性を作りこむ ～設計・実装の工夫で支えるユニットテストの継続的活用～ TDD、CI等を導入し、実装作業の中でユニットテストを継続的に活用し始めると、課題としてユニットテストの保守性が問題となってきます。例えばそこでは「製品コードを変更するたびに多くのテストコードも書き換えなければならない」、リファクタリングコストが増大している「製品コードの頻繁な変更によりテストの保守が付きにくい」、テスト設計が損なわれる」などといった問題がしばしば発生します。 このセッションでは、そうしたユニットテストの保守性の問題を改善し、ユニットテストをより継続的に活用できるようにするためのテストの設計・実装ノウハウについて説明します。
14:45 - 15:00	休憩	休憩(メイン会場へ移動)
15:00 - 15:45	<b>【1-4】セッション3</b> <b>森崎 修司 / 奈良先端科学技術大学院大学</b> プラクティスが有効にはたらく前提は明らかになっていますか？ ～コンテキストを明示して成功事例を分かち合い、更なる前進につなげる ソフトウェア開発の事例やプラクティスは、単純にマネするだけでうまくいくとは限りません。 個々の開発は前提や文脈(コンテキスト)が異なるのが主要な原因の1つです。 成功事例を伝える場合にも、ご自身の開発を継続的に改善する場合にも、コンテキストを明らかにすることは有益です。 特に日本では様々なソフトウェア/システムの開発形態があり、単純にプラクティス、技法、工夫を伝えるだけでは十分ではないと感じたことがあるのではないのでしょうか。 本セッションでは「前提」を例をまじえて紹介した後、エンピリカルソフトウェア工学で推奨されているコンテキストの記述方法を紹介します。 セッション内で紹介する例題を会場全員で議論しましょう。 年間のべ2000人の多種多様な分野の実務者の方々の前でお話をする際に気をつけている点も紹介します。	
	15:45 - 15:50	休憩
15:50 - 16:20	LT大会	
16:20 - 16:30	クロージング	
16:30	終了	

■ イベント会場

大阪市立 会館 鶴見区民センター



住所 : 大阪市鶴見区横堤5-3-15 (鶴見区役所西隣)  
 電話番号 : 06-6912-3971  
 最寄駅 : 横堤 (大阪生駒奈良線)  
 URL : <http://www.osakacommunity.jp/turumi/access.html>

■ 懇親会会場

cafe restaurant Sunny Clouds



・17:15開始、19:15終了  
 ・区民センターから歩いて10分程度



住所 : 大阪市鶴見区横堤4丁目11-6  
 電話番号 : 06-6914-3008  
 URL : <http://sunnycloids.aboss.co.jp/>

